

ドコモクラウドの先にあるもの



サービス&ソリューション開発部 部長 おおの ともよし
大野 友義

2011年11月に発表した中期ビジョン2015の中で、ドコモクラウド^{*1}により、「サービスの進化と融合の取組みを加速させ、便利・充実・効率的かつ安心・安全なスマートライフを実現する」とドコモクラウド構想が語られている。

モバイルクラウドの本質は、端末のデータ、機能をクラウドに集約することである。クラウドに集約することで、例えば、端末を紛失してもデータはクラウドにあるので、メール、電話帳、写真などのデータが消失することもないし、端末機種変更時に、クラウドのデータ同期機能により、機種変更直後から最新データに同期した新端末を利用することが可能になる。また、クラウドにデータがあるので、スマートフォンやタブレットなど、異なる種類の端末でも同じ環境でサービス、コンテンツを楽しむことが可能になる。つまり、時、場所に応じて、より便利に、よりパーソナルなサービス利用環境を提供する仕組みがドコモクラウドである。ここで、LTEによる無線伝送の高速化が、快適なクラウドサービスの利用に大きく寄与していることも忘れてはならない。

Google社、Apple社は、クラウドサービスを早くから提供しているが、各社のクラウド活用の位置付けは、微妙に異なる。Googleは、広告で利益をあげるビジネスモデルであるため、サービス提供による集客のためにクラウドを活用している。Appleは端末販売で利益をあげるビジネスモデルであり、端末価値向上のためにクラウドを活用している。一方、ドコ

モは、ドコモクラウドを総合サービス企業への進化とスマートライフ実現のためのビジネスインフラとして活用する。肌身離さず携帯している端末、ID・課金・認証機能を提供しているネットワーク基盤と、ユーザから預かったさまざまな情報と同意いただいたユーザの履歴データを処理するパーソナライズ基盤から構成されるドコモクラウドにより、多様化したユーザの高度なニーズをユーザ1人ひとりに合わせて、よりパーソナルなサービスとして提供する。

クラウド時代においては、サービス開発の方法が従来と変わってくる。OTT (Over The Top)^{*2} プレイヤとのサービス競争が激化する中で、サービス開発のスピードが勝敗を左右する。しゃべってコンシェルは、わずか5人の開発メンバーでアジャイル開発手法を用いて、短期間で開発を完了した。また、サービス開始後も、Twitter^{*3}などのユーザの辛口評価の書込みを絶えず注視し、1~2週間周期で逐次、改善に取り組んだ。仕様変更や逐次機能追加を前提とし、短いサイクルで繰返し開発するアジャイル開発は、機能拡張、改善がクラウド側のソフトウェア変更で実施可能なクラウドと極めて相性が良い。

クラウドサービスの場合、マスターデータがクラウドにあり、クラウド側でサービス提供をするため、外部サービスとの連携が容易になる。フォトコレクション^{TM*4}は、外部サービス「Evernote^{®*5}」、「Eye-Fi^{®*6}」、「ハイカム^{TM*7}」と連携し、各サービスで保存された写真・動画もフォトコレクションにて一括で閲覧整理できる。これらの外部サービス連携は、オープンAPI (Application Programming Interface) の整備と積極的なAPI公開が鍵となる。オープンAPIを異業種、他業界へさまざまな形で公開し、ドコモクラウドを活用した新たなイノベーションサービス創造のための開発者支援もドコモR&Dとしての重要な役割である。

ドコモクラウドの先には夢がある。ユーザニーズの多様化、オープンプラットフォーム端末の普及、グローバルかつ多種多様なOTTプレイヤのモバイル市場への参入など、事業環境変化が激しい今だからこそ、ドコモクラウドを武器に、スピード&チャレンジで夢の実現に向けてベストを尽くしたい。ドコモクラウド基盤をオープンイノベーションの起爆剤とすることが、私の使命であると肝に銘じている。

*1 ドコモクラウドTM：(株)NTTドコモの商標または登録商標。
 *2 OTT：通信キャリアのネットワーク上で、地域やキャリアに制約されずにVoIP、インスタント・メッセージなど上位レイヤのサービスを提供すること。
 *3 Twitter：アメリカ合衆国または他の国々におけるTwitter, Inc.の登録商標。
 *4 フォトコレクションTM：(株)NTTドコモの商標または登録商標。
 *5 Evernote[®]：米国Evernote Corp.の商標または登録商標。
 *6 Eye-Fi[®]：アイファイジャパン株式会社の登録商標。
 *7 ハイカムTM：ハイライトカムジャパン株式会社の商標。